

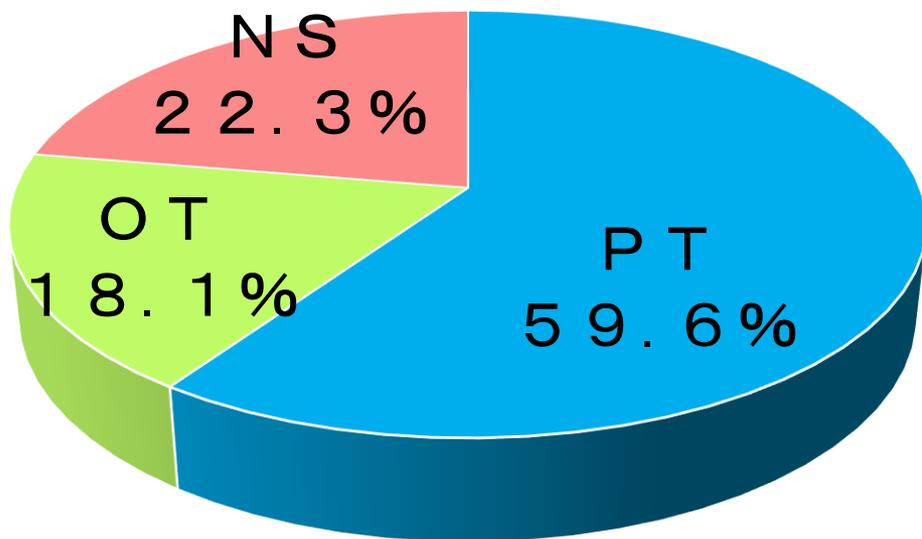
令和5年度 学生アンケートのまとめ

アンケート実施期間
令和5年11月16日～令和6年1月16日

北都保健福祉専門学校

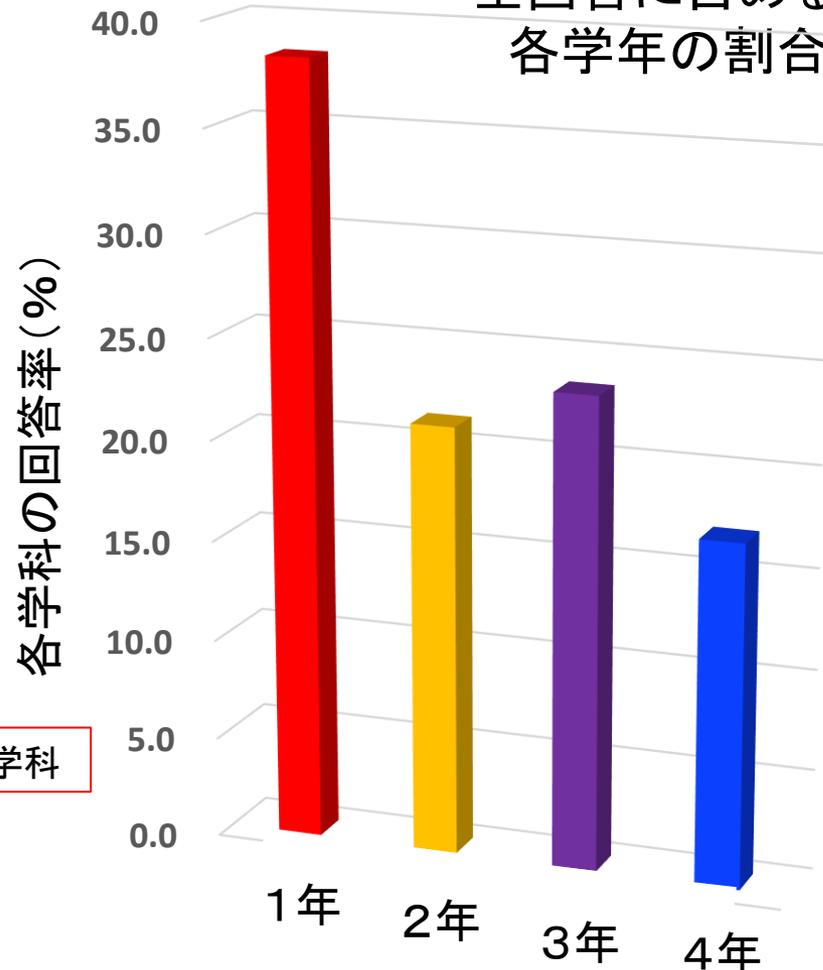
Q 1. 学生アンケートの回答率

全回答における3学科の割合



PT : 理学療法学科、OT : 作業療法学科、NS : 看護学科

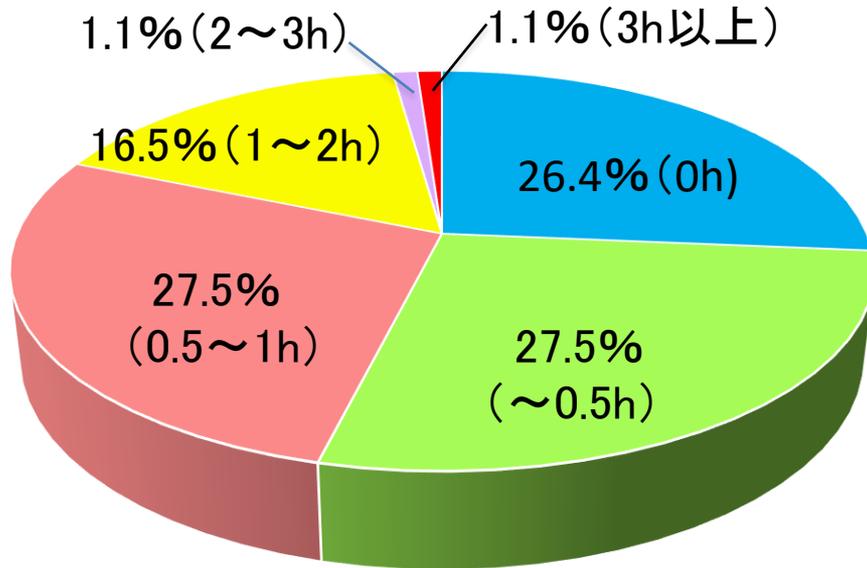
全回答に占める
各学年の割合



今年度のアンケート回答者の内訳をみると、NSの割合が昨年度対比で大きく減少していた。そのため、全体的にはPT学生の意見が大きく反映されており、学年別で見ると1年生の意見が色濃く反映されたアンケート結果となっている。

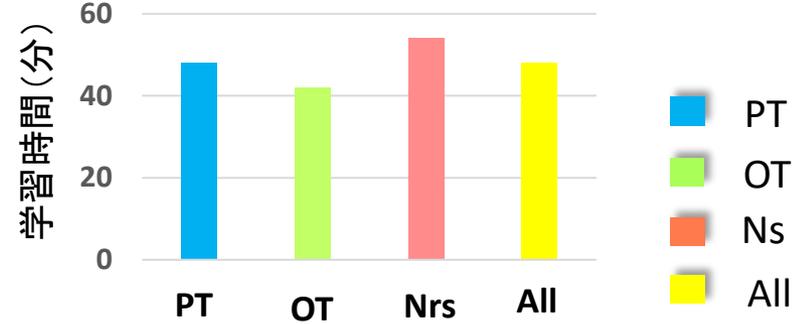
Q 2 . 試験がない期間の学習時間はどのくらいか

全学生の自己学習時間の分布

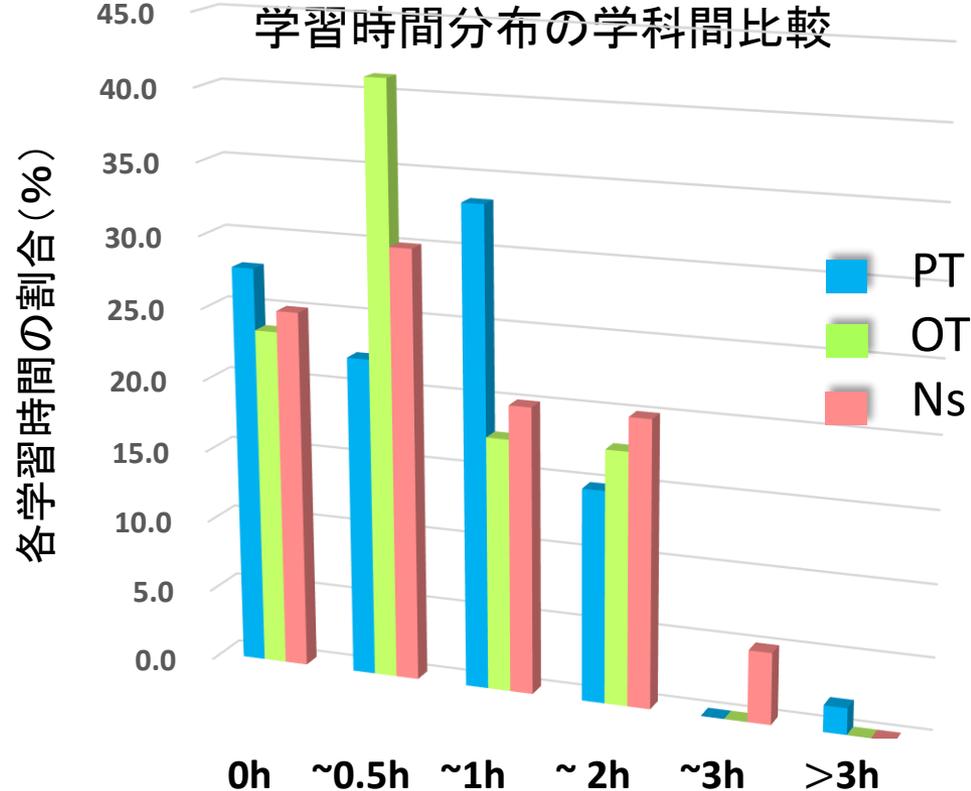


試験がない期間では、自己学習時間が0hや~0.5hと回答した学生が全体の54%であり(左図)、昨年対比で見ると1人当たり30%ほど学習時間が減少していた。学科間の比較では、学習時間が多いのはNS、PT、OTの順(右の上下図)であった。昨年度最も学習時間が多かったOTは、今年度は最も少なかった。

一人あたりの1日平均学習時間

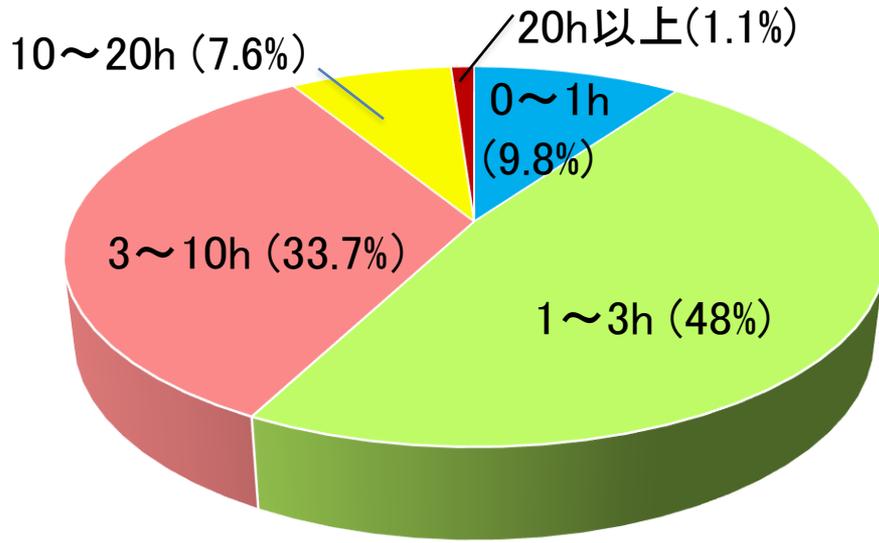


学習時間分布の学科間比較

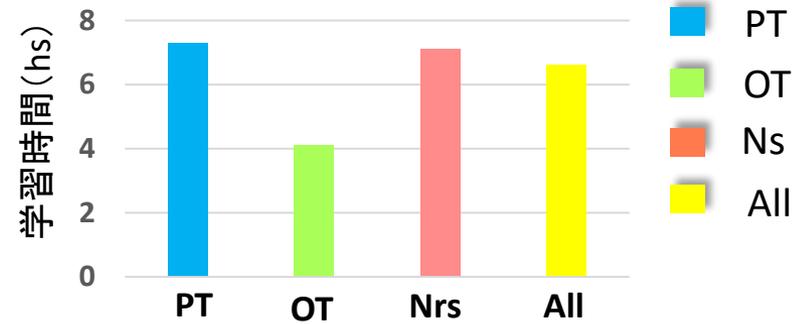


Q 3. 1科目あたりの学習時間はどのくらいか

全学生の自己学習時間の分布

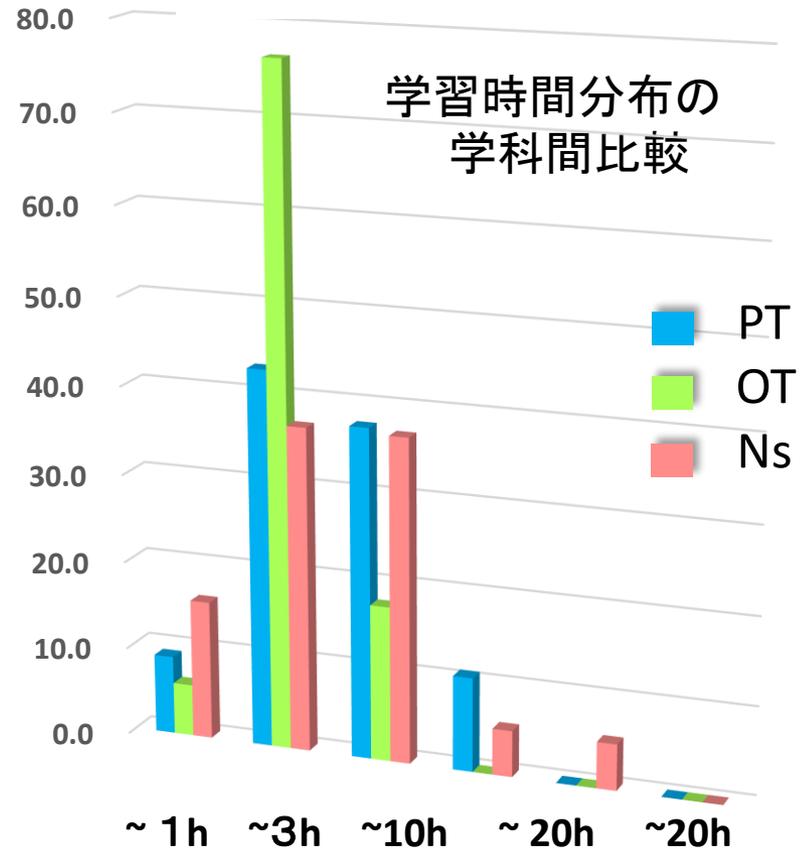


1科目あたりの平均学習時間



学習時間分布の学科間比較

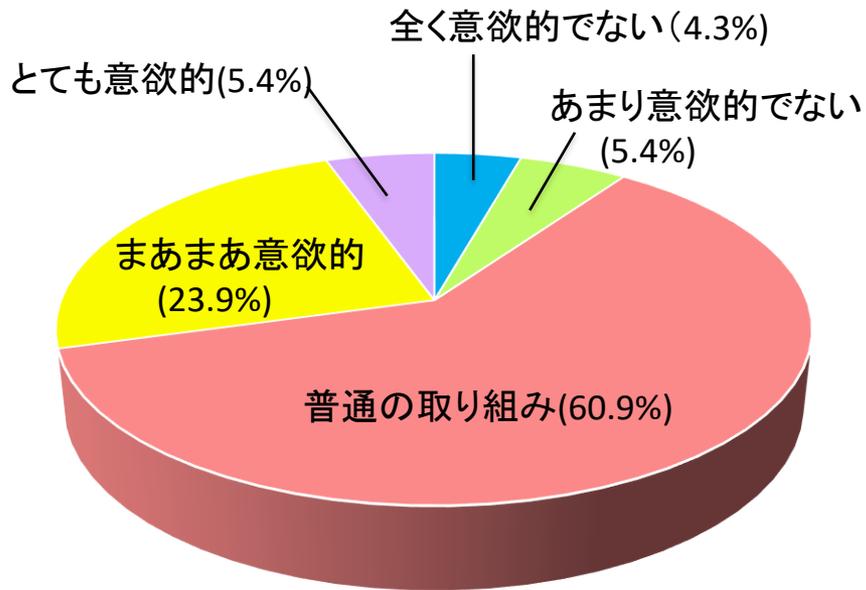
各学習時間の割合 (%)



試験に向けた1科目あたりの平均学習時間は、PTやNSの学生では平均7時間前後であり、OTの学生では4時間ほどであった(右上図)。また、1科目あたり1~3時間ほど学習するOT学生は全OT学生の76%ほどであった。PTやNSの学生の方がより多く学習していたと推測される(右下図)。

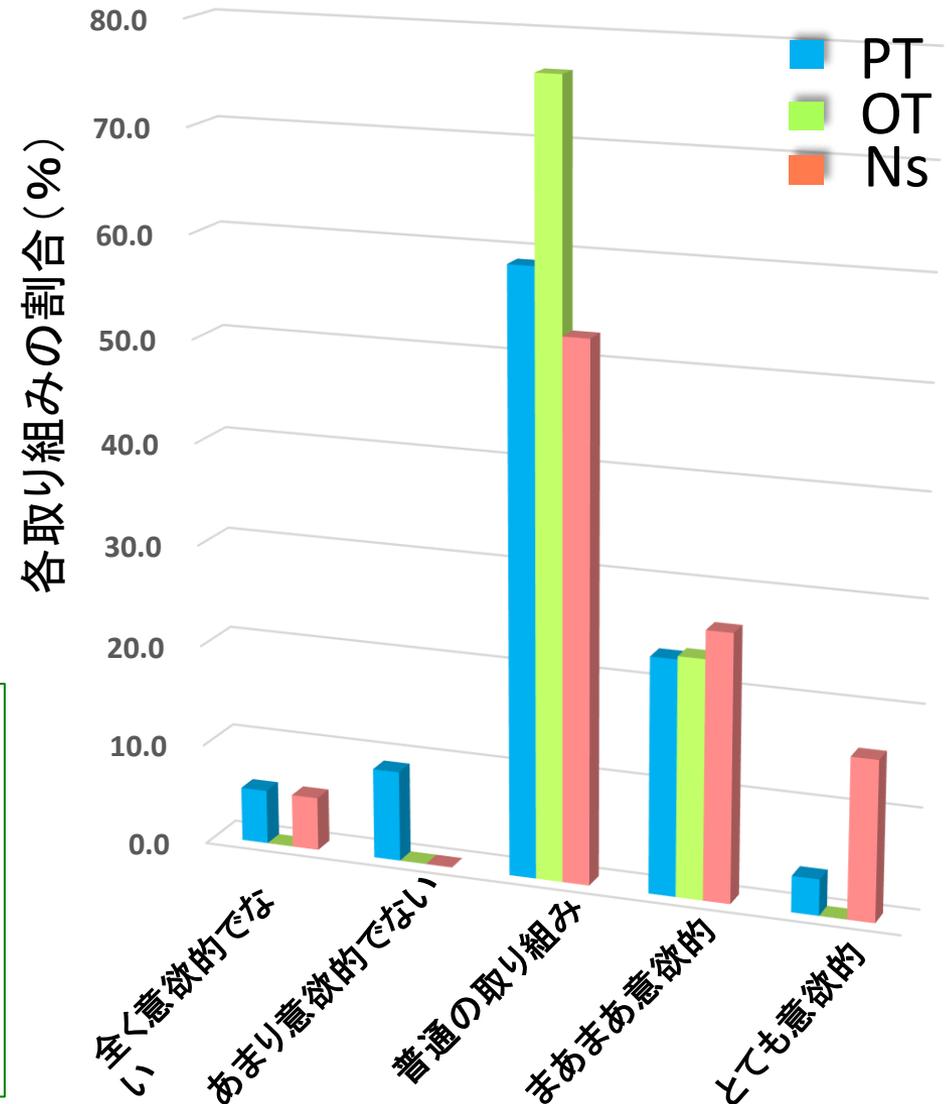
Q 4 . 授業への取り組みはどうか

学生全体における各取り組みの分布



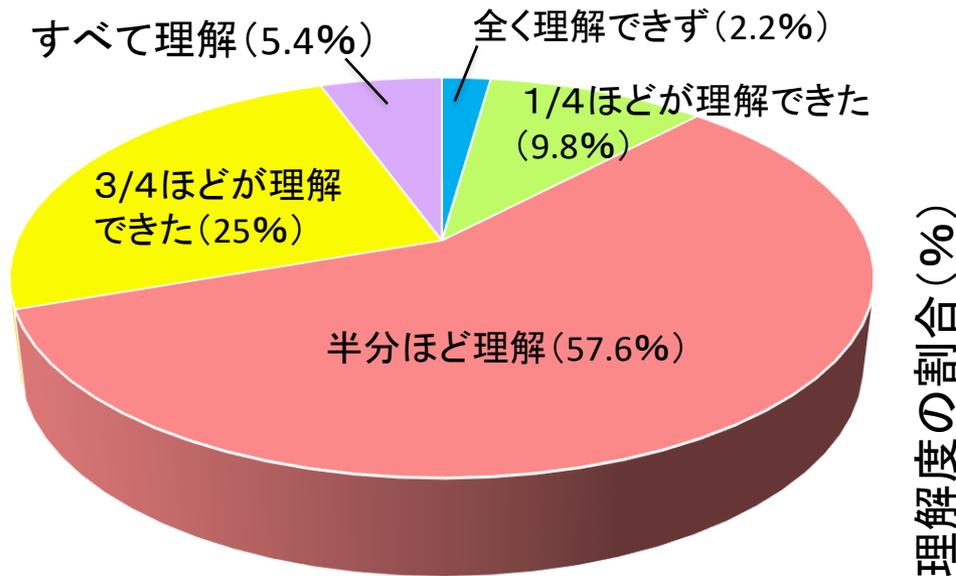
授業への取り組みは、3学科とも「普通の取り組み」あるいは「それ以上の積極的な取り組み」であったため、概ね良好な取り組みをしていたと考えられる。しかし、「とても意欲的」とか「まあまあ意欲的」とあるとする学生をもっと増やす余地は十分にあったと考えられる。

授業の取り組みに対する学科間比較



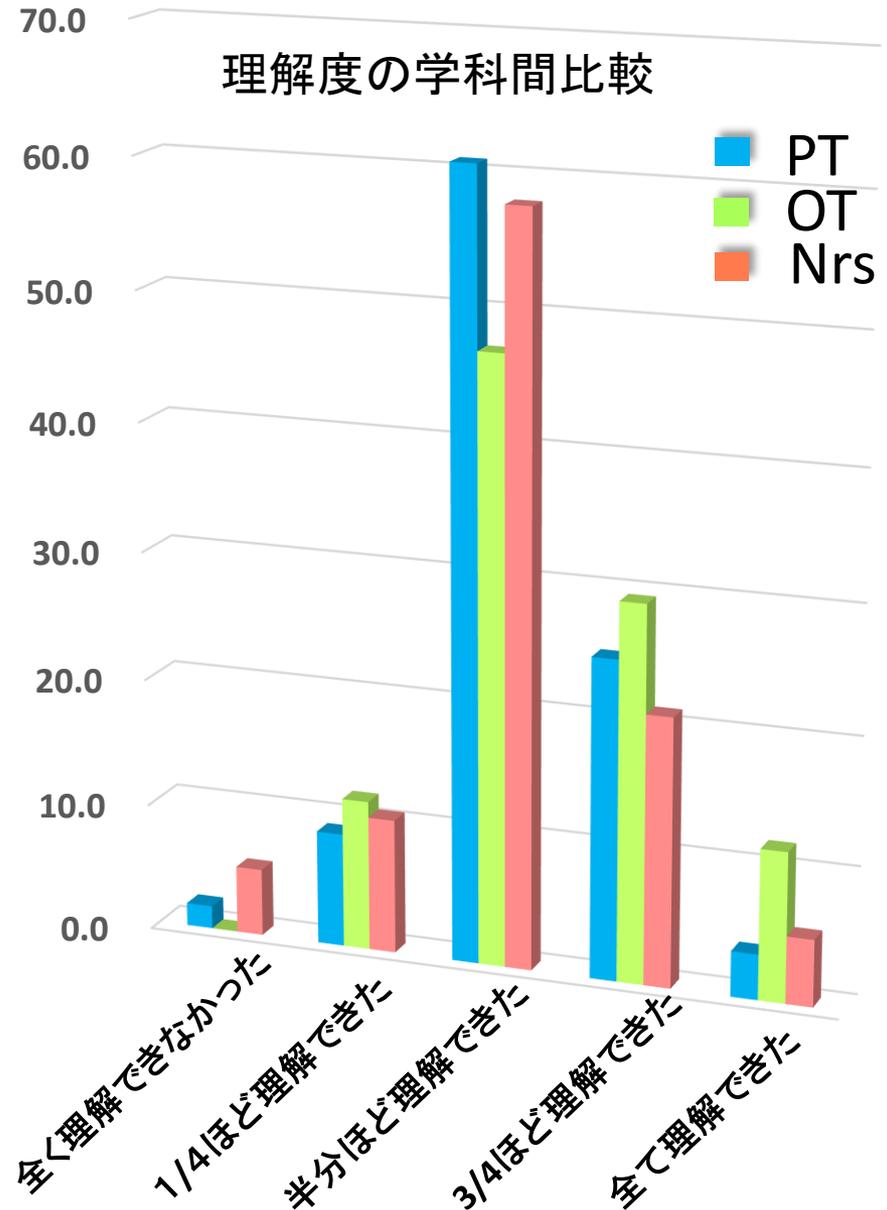
Q5. 授業内容をどれくらい理解できたか

学生全体の理解度の分布



「授業の半分」や「それ以上」を理解できたとする学生は全体の88%ほどであり（左図）、かつ学科間の差異はあまりなかった（右図）。それゆえ、まあまあの理解度と考えられた。ただ、「授業の3/4あるいは全てを理解できた」とする割合は30.4%ほどであり、昨年度と比して若干減少していた。授業改善や個別指導によりさらに理解度向上のための創意工夫が必要と考えられる。

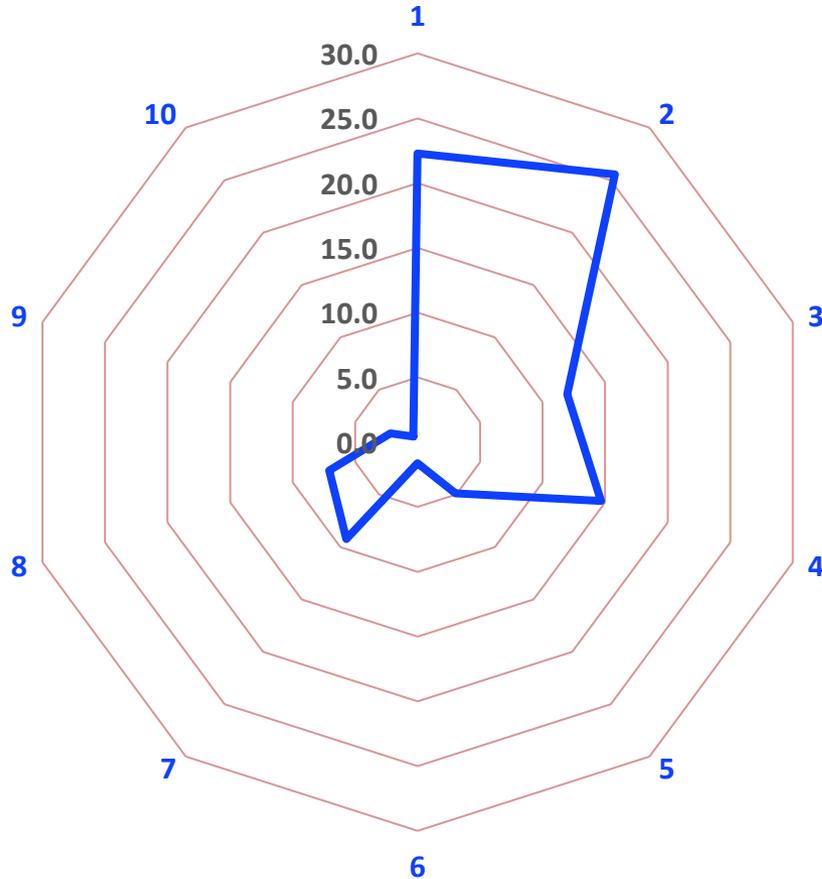
理解度の学科間比較



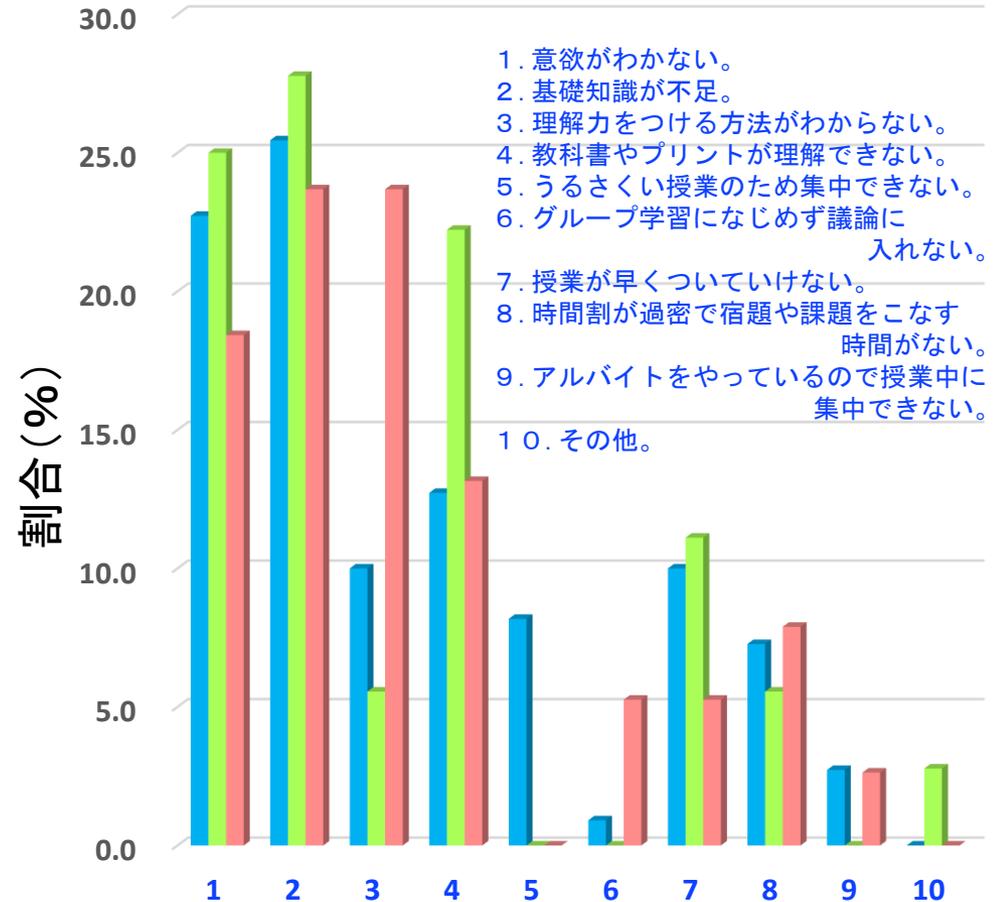
Q 6 ~ Q 7 . 理解不足の原因は何か

回答は
複数選択

学生全体から見た原因



理解不足の要因の学科間比較

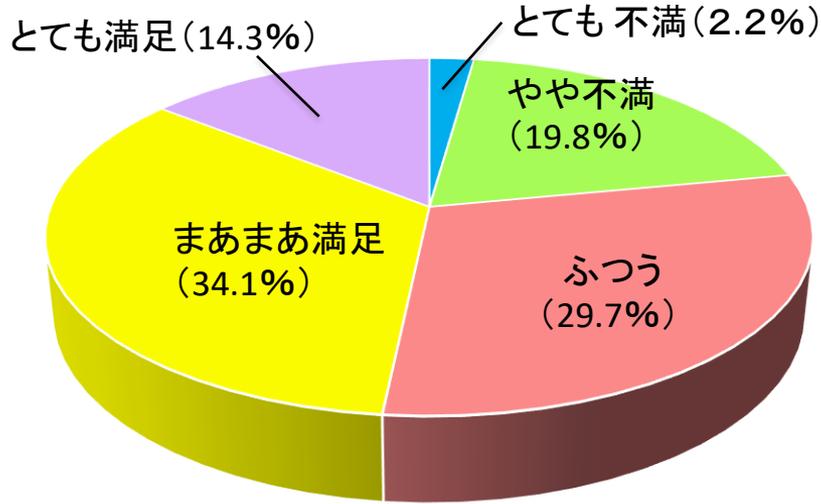


1. 意欲がわからない。
2. 基礎知識が不足。
3. 理解力をつける方法がわからない。
4. 教科書やプリントが理解できない。
5. うるさくい授業のため集中できない。
6. グループ学習になじめず議論に入れない。
7. 授業が早くついていけない。
8. 時間割が過密で宿題や課題をこなす時間がない。
9. アルバイトをやっているので授業中に集中できない。
10. その他。

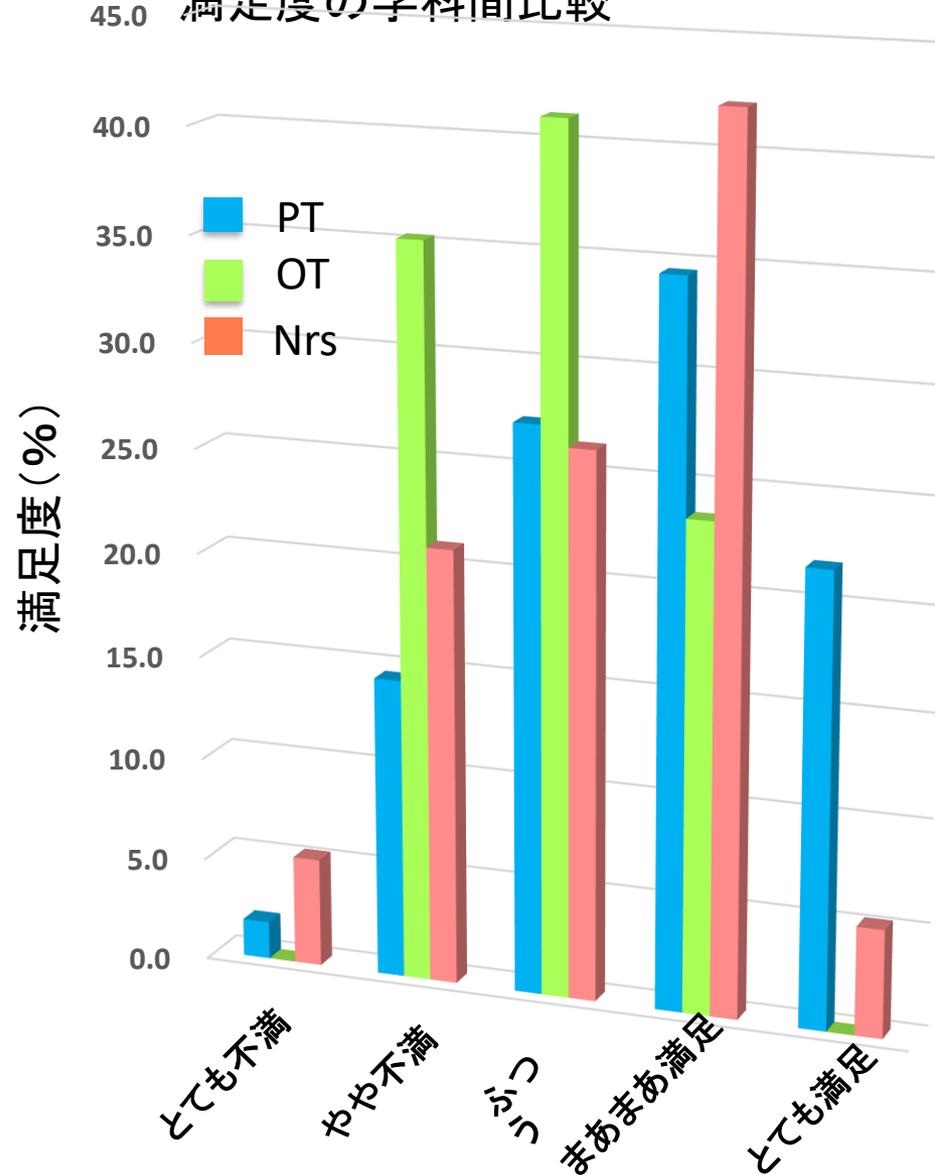
レーダーチャート（左図）から1と2の原因がどの学科でも大きな割合を占めていた。学科別で見ると（右図）、NSではさらに3が、OTでは4が主な原因となっていた。それゆえ、理解不足を補うためには、「各授業の意義を学生に伝え学習内容への動機付けを行う」、「講義資料はわかり易く作成する」、さらには、「基本的な学力を補う補講や質問対応を丁寧に必要に応じておこなう」等が強化されるべきと考えられる。Q7に関するコメントとして、「教員の指導力の問題点」が挙げられていた。これについてはQ8～Q10でさらに質問を重ねた。

Q 8 . 本校教員に満足しているか

学生の満足度



満足度の学科間比較

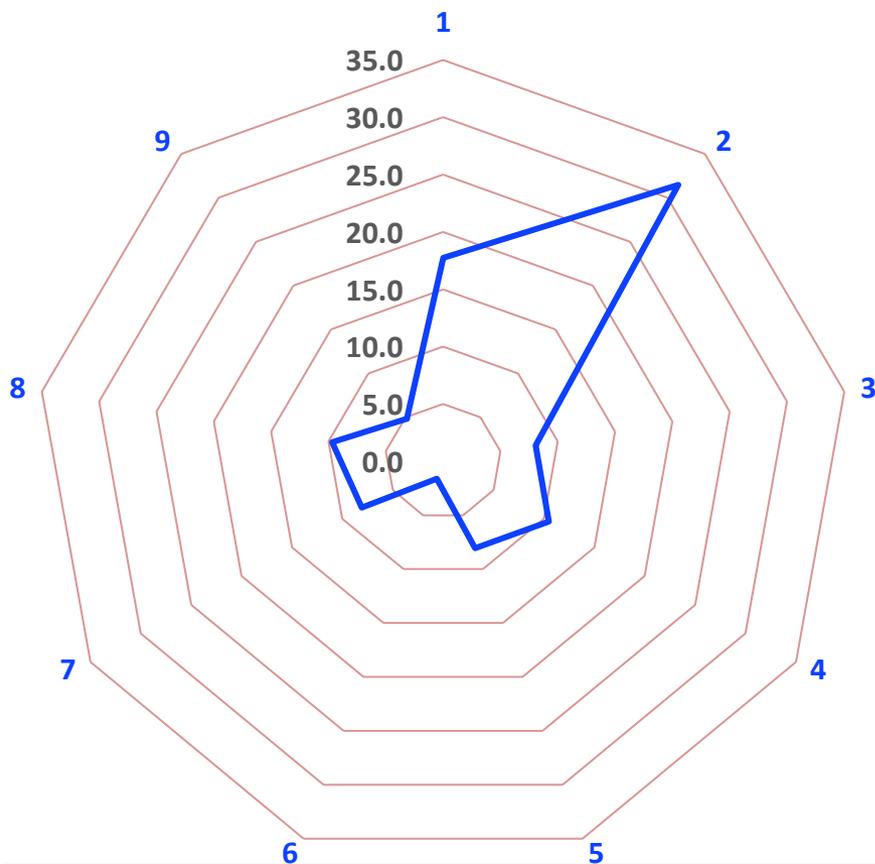


教員に対する学生の満足度は「ふつう」及び「それ以上」の合計が78.1%であったため（左図）、まあまあの状況と考えられた。昨年対比で見ると、「とても満足」や「まあまあ満足」が若干減少した。その分だけ、「やや不満」や「ふつう」が増えていた。それゆえ、教員あるいは教員の指導方法に対する満足度がやや減少したと考えられる。学科別で見ると、昨年度の満足度が一番高かったOTが、今年度は一番低くなっていた（右図）。わずかでも不満につながる原因にはしっかり取り組んでいきたい。

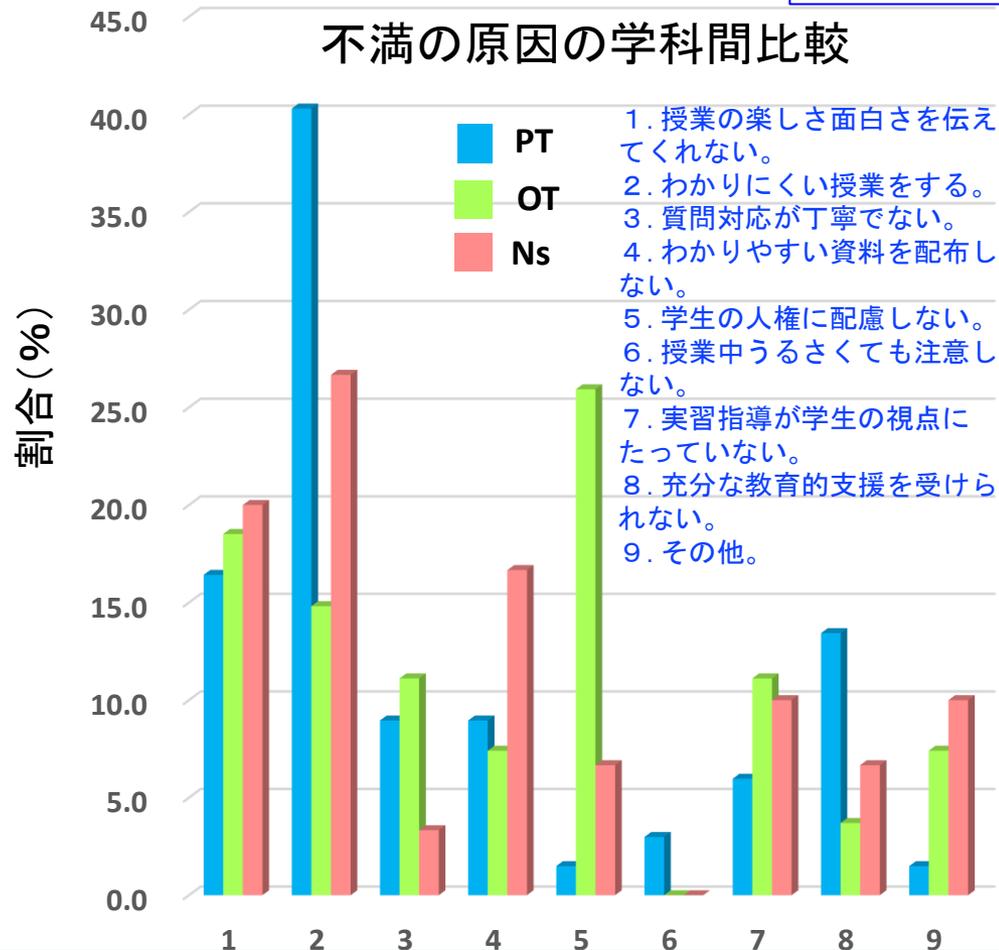
Q 9 ~ Q 1 0 . 教員への不満の原因は何か

回答は
複数選択

学生全体の不満原因



不満の原因の学科間比較



1. 授業の楽しさ面白さを伝えてくれない。
2. わかりにくい授業をする。
3. 質問対応が丁寧でない。
4. わかりやすい資料を配布しない。
5. 学生の人権に配慮しない。
6. 授業中うるさくても注意しない。
7. 実習指導が学生の視点にたっていない。
8. 十分な教育的支援を受けられない。
9. その他。

学校全体では2の「授業がわかりにくい」という不満が多かった（左図）。学科間での比較では（右図）、NSでは1、2、4が不満の原因となっていた。PTも1や2に加え、8もやや多かった。OTでは、1や2より、5の「学生の人権に配慮が足りない」というところが際立っていた。それゆえ、「わかりやすい授業や資料の作成」、「授業の面白さを伝える」などが不十分と考えられる。また、「人権に配慮」という点は、これまであまり指摘がなかったところである。改善すべき課題の一つとして対応していきたい。

Q 1 0 . 教員対応における「その他」の理由と回答

学生：「**黒板の文字**」。

学校回答：よく見えにくいというコメントでしたが、ホワイトボード用のマーカーの出が悪かったためでしょうか。マーカー補充をしっかりと行います。文字サイズに関しては各学科教員に大き目の板書を依頼します。

学生：「**衣服が短くて腹部が見えている教員**」や「**教員間での連携**」。

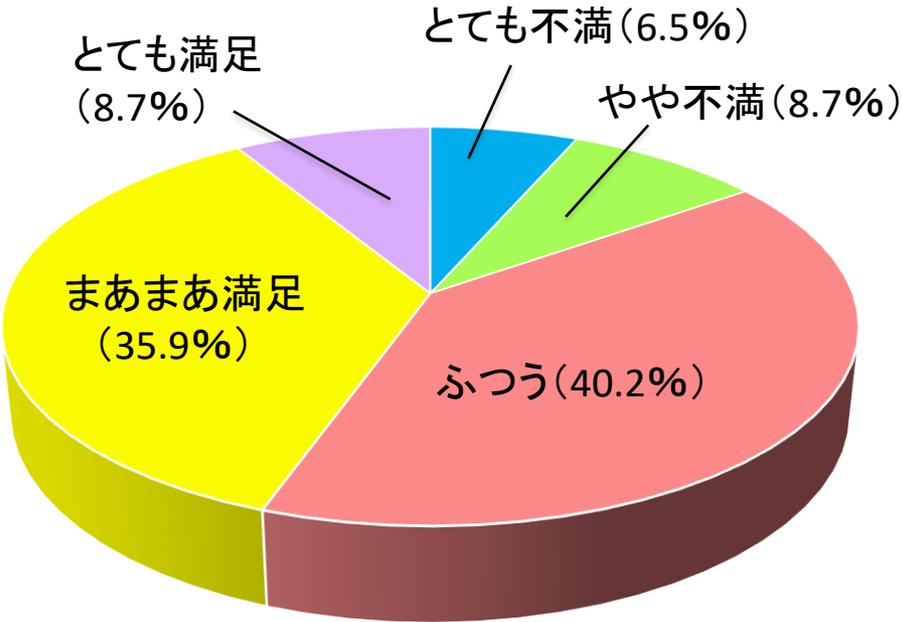
学校回答：おそらくおしゃれな衣服が、教育現場ではふさわしくないと感じられたのでしょう。決して悪気があったとは思われませんが、誤解を受けないようにしたいものです。このような問題は、これまで、教員が学生に対して注意するケースが多かったのですが、お互い節度を持って対応すべき時代になってきたようです。教員間の情報共有とそれに基づく対応は日頃から各学科でしっかり行っていますが、多忙な時期が重なってやや不十分な対応になったのかもしれませんが。もし何かありましたら、担任あるいは学科長までご連絡下さい。

学生：「**学生対応**」、「**教員の挨拶**」、「**個人情報**」に関するコメントなど。

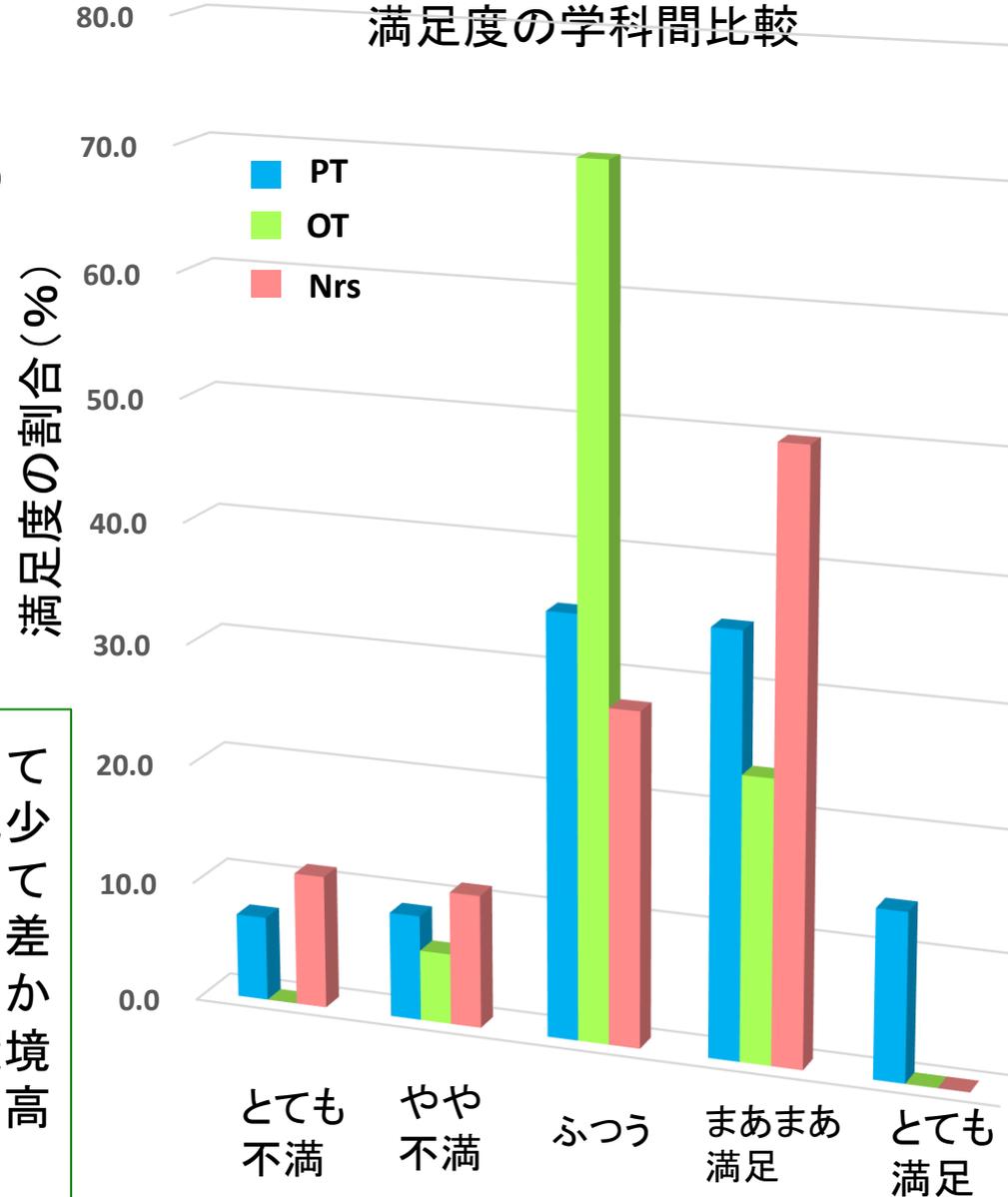
学校回答：学生の指導方針や基本的な姿勢としては、日によってあるいは学生によってブレることなく丁寧な対応が本校の基本対応です。依怙鼻頂のようなことはないと思いますが、だれに対しても誠実な対応が望ましいと考えます。挨拶については、学生や教職員が気持ちよく行うことが望ましい教育環境と考えられます。もし教員が自分の学科の学生に対しては行うが、他の学科の学生には行わないとすれば、それは改めて欲しいことと考えられます。学生の個人情報についても、教職員はその保護に努めております。学校は嚴重にそのような情報を管理する上で、守秘義務を遵守することが責務となっています。多くの教員はしっかり対応していると考えております。ただ、不用意な発言をしてしまうことがあったとすれば問題ですので、再度周知をしていきたいと存じます。

Q 1 1 . 本校の学習環境に満足しているか

学習環境に対する満足度



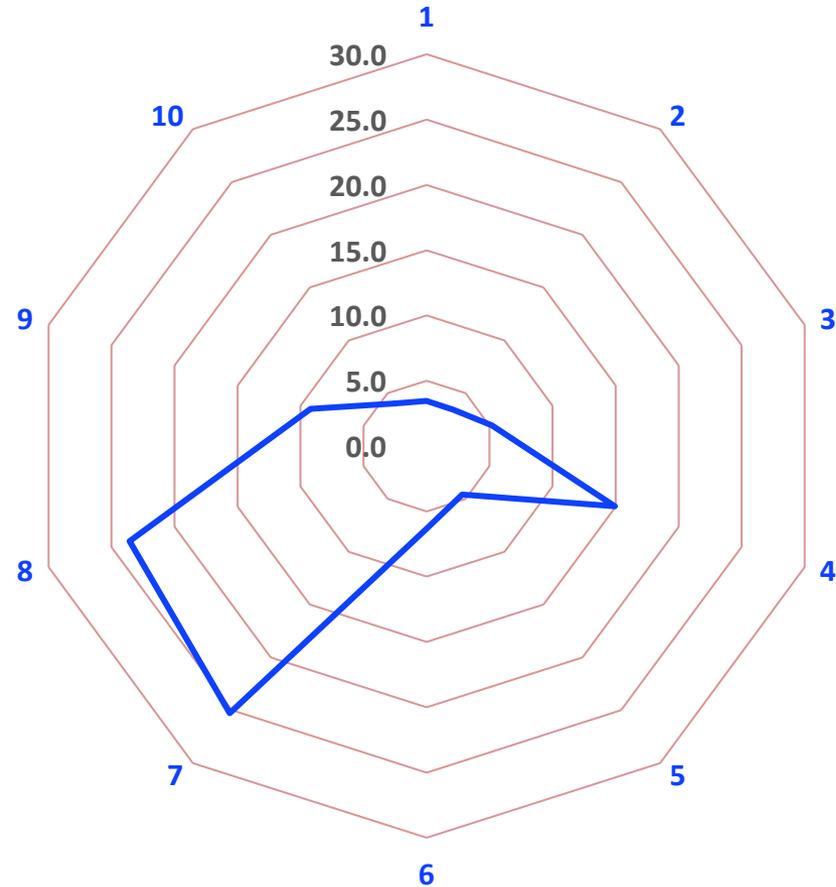
満足度の学科間比較



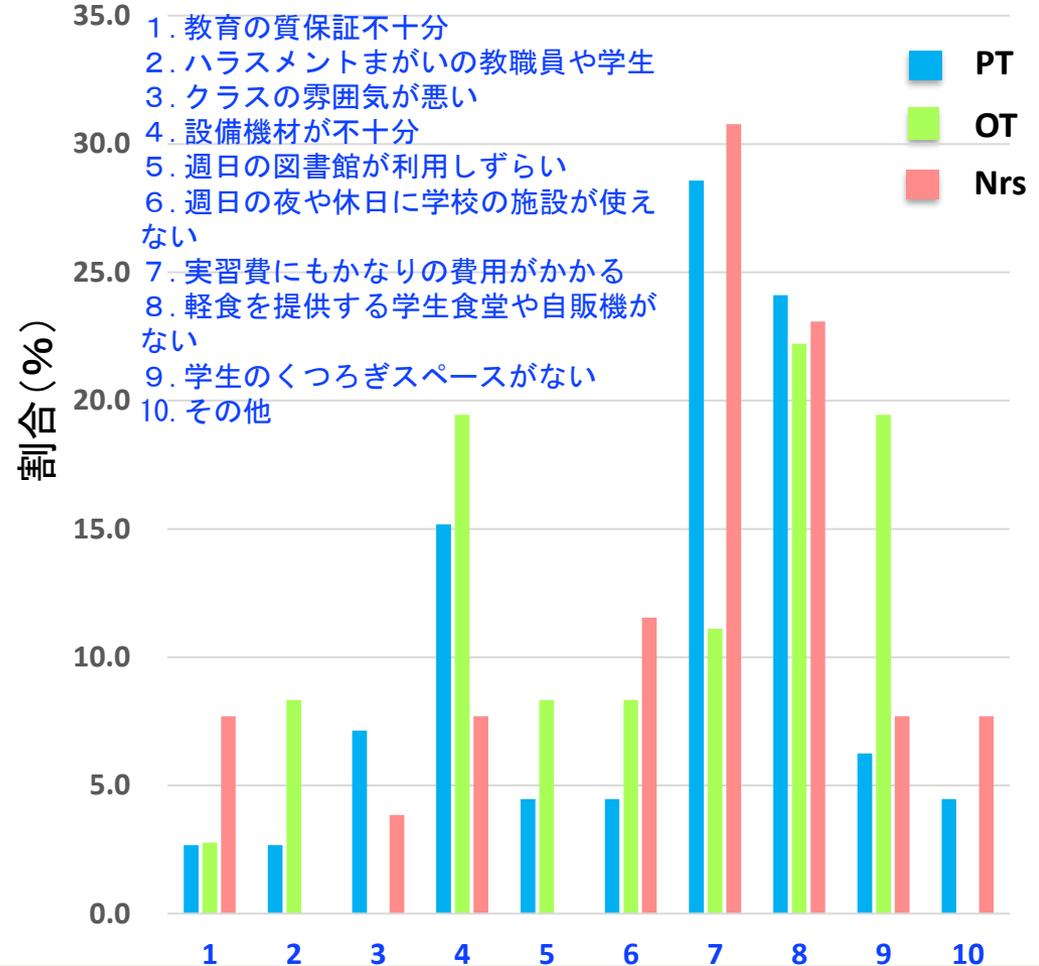
昨年度対比では、今年度の結果では「とても満足」や「まあまあ満足」がやや減少しており、その分が「ふつう」が増加していた。各学科の満足度には、それなりの差異が認められた（右図）。これらのことから、今後も計画的にどの学科でも学習環境の改善にいつそう努め、学生の満足度を高めていくべきと考えられる。

Q 1 2. 教育環境に対する不満は何か

学生全体の不満の原因



不満原因の学科間比較



教育環境に不満を感じる原因としては、7の「実習費がかなりかかる」や8の「軽食が取れる学生食堂の設置」が多く指摘された（左図）。学科別で見ると、OTでは4の「設備」に関することや9の「くつろぎのスペース」に関する要望があった（右図）。8に関する対応としては、現在、冷食提供を拡大させて行く準備がなされている。

Q 1 3 . 教育環境に対する「その他」の理由と回答

学生：「自販機（の商品）の価格や品数の種類」、「再試代」、「駐車料金」、「カラー印刷機の導入」、「学祭の売上金の使途」などに関するコメントがそれぞれ複数ありました。

学校回答

自販機について：一般的には、価格設定は販売量や維持費と売上高の関係で決まってくると想像されます。価格は出入りの業者が設定したものであり、学校が独自に決めているわけではありません。ただ、皆さんから何か要望やトラブルがあったときは、その内容を自販機のパネルにある連絡先にお伝え下さい。あるいは、ドアの前面にメッセージを書いたものの封をして、貼っておくのがよいでしょう。

再試代：年間の授業料を総時間数で割って再試代を算出しました。当初は自己学習が不十分な学生が多く、安易に再試を受けることが多くありました。そこで、再試料を少し上げるが、日頃の学習がうまく進むように質問対応を気軽にできるようにしました。これにより再試対象者数を減らすことができました。是非、この趣旨をご理解頂き、しっかり復習して試験に臨んで下さい。正当な理由があり試験を止むを得ず欠席する場合は、手続きをすることで追試扱い（無料）となります。

駐車料金：冬場は降雪時の除雪、夏場は駐車場のライン引きやアスファルト修繕などの管理経費がある程度必要ですので、それらの費用の一部をご負担して頂くように現在の料金に設定しました。

Q 1 3. 教育環境に対する「その他」の理由と回答

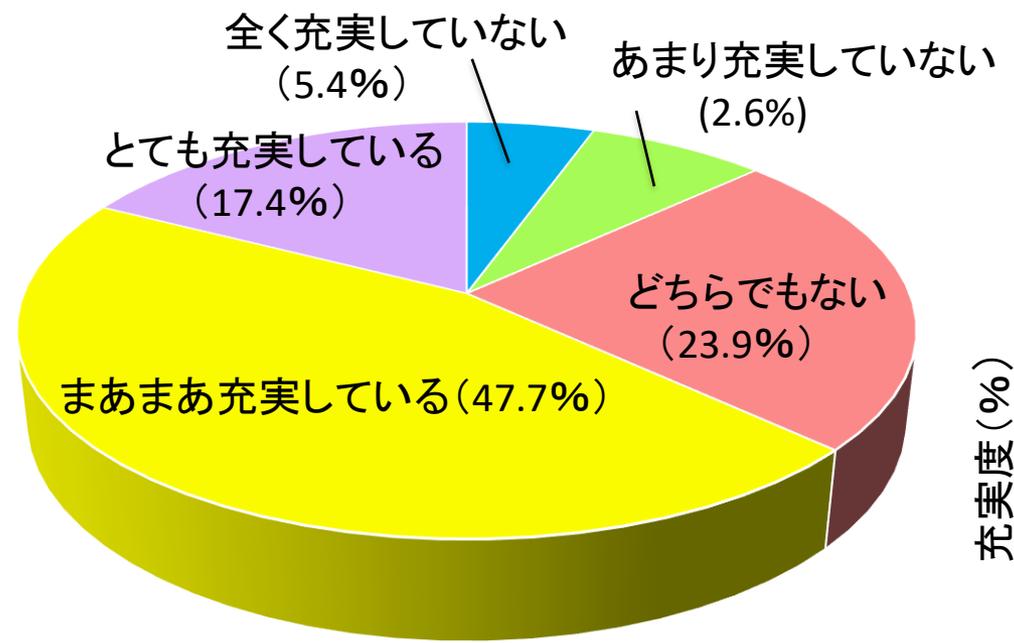
学校回答

カラーコピー機：大学や他の専門学校に問い合わせを致しましたが、コピー代（特にカラーコピー）は利用者負担をお願いしているところが多いようでした。ただし、授業で全員に配布する授業資料に該当するものはこの限りではありません。

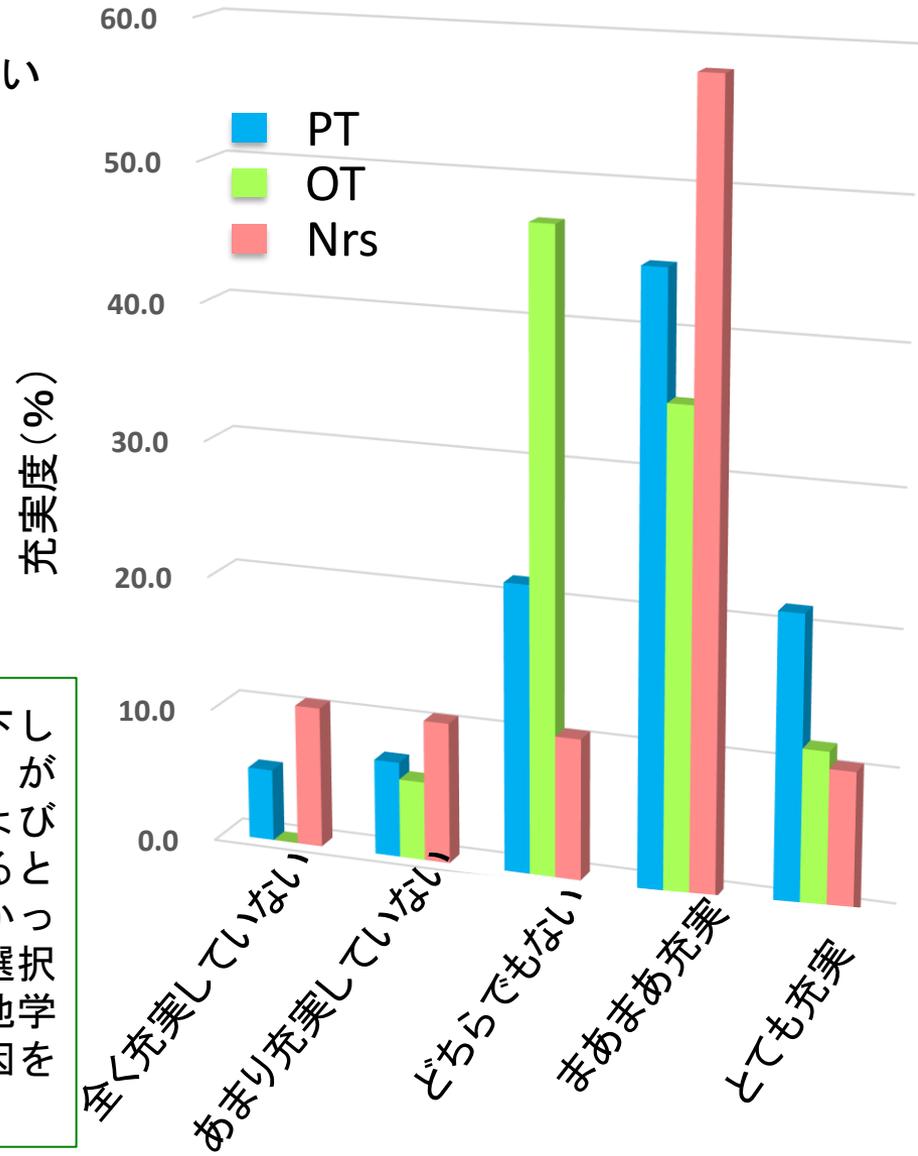
学祭売上金：令和5年度の学祭は久しぶりにコロナ禍以前の方式で行いました。実施準備段階では必要な予算がありませんでしたので、校費から支援を受けて実施致しました。今後、「どのような方式にしていけば持続可能な学祭として開催していけるか」を学生委員会および学生メンバーを加えた会議などを通じて、皆さんで話し合ってもらいたいと考えております。その際、模擬店利益の還元に関することも話し合ってください。

Q 1 4 . 学生生活は充実しているか

学生生活の充実度



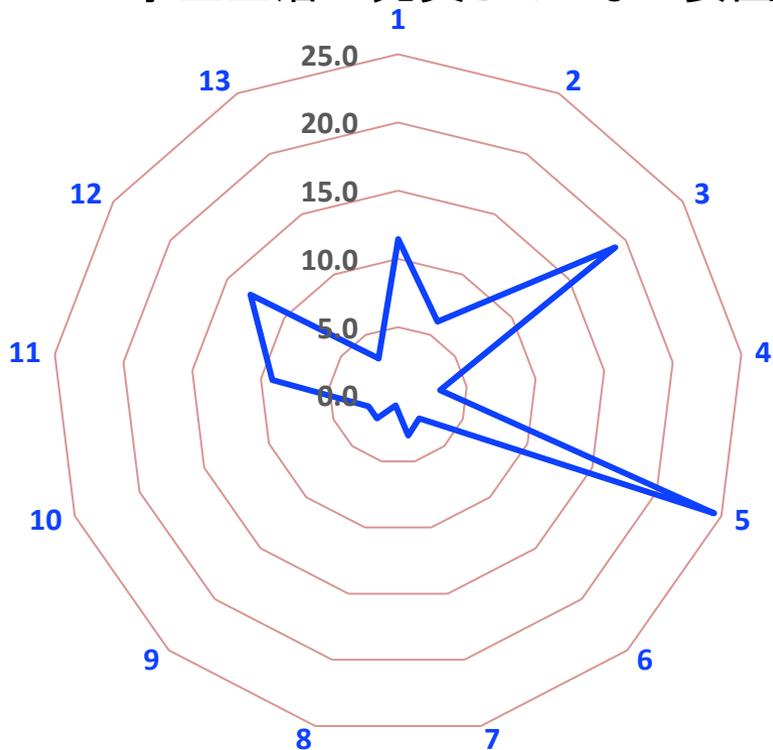
充実度の学科間比較



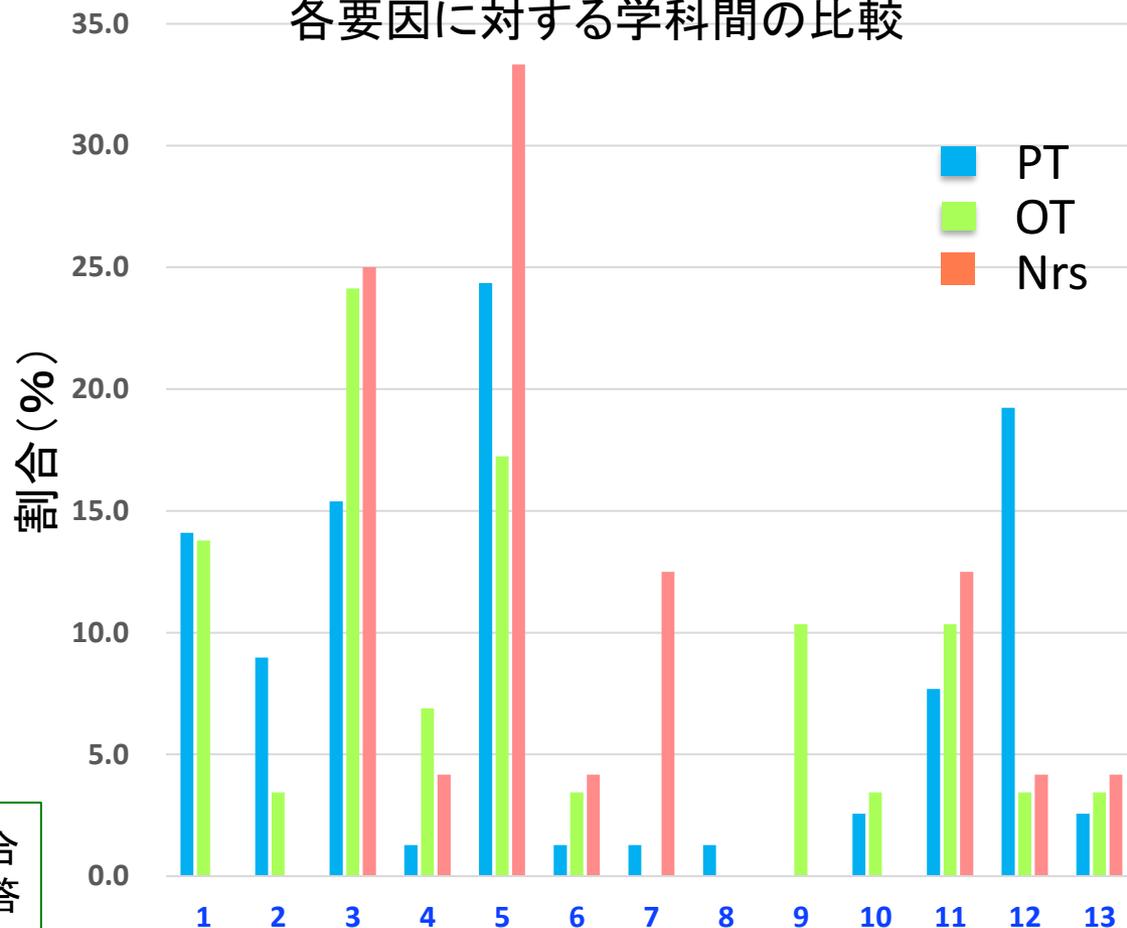
学生生活の充実度は、昨年対比で全般的に明確に低下していた（左図）。「とても充実」や「まあまあ充実」が合わせてやや減少し、その分「どちらでもない」および「それ以下」が増えていた。学科間の比較に注目すると（右図）、PTやNSでは、「まあまあ充実」が多かったが、OTでは、「どちらでもない」がもっと多く選択された。学生生活は各学科の対応改善だけでなく、他学科との交流という対応も考慮すべきであるため、原因を考えて対策を進めていきたい。

Q 1 5 . 学生生活が充実していない要因は何か

学生生活が充実していない要因



各要因に対する学科間の比較



「少しでも学生生活が充実していない場合の原因は何か」という質問に関して、回答で多かったことは第一に5の「病院実習に対する不安が大きい」であった。さらに、3の「学習内容を理解できないことからくる焦り」がその次であった。実習に対する準備やわかりやすい授業の展開を心がけて課題の改善をはかって行きたい。

1. サークルや課外活動が十分にできない
2. 交友関係が築けていない
3. 授業が理解できない焦りがある
4. 課題やサポートが多すぎる
5. 病院実習のことで不安になる
6. 学びたかった学習内容と異なる
7. 本校が第一志望でなかった
8. ハラスメントに悩んでいる
9. 相談できる窓口がなく、精神的につらい
10. アルバイトする時間がない
11. もっと遊びたいのに遊べない日々が続く
12. 経済的にゆとりがない
13. その他

Q 16. 学生生活の「その他」の理由と回答

学生：学生生活の充実度に関して、「経済的理由」が充実度が低いという、「恋人がいる」が高いという回答になっていた。

学校回答：物価が上昇する中では、学生生活において色々な費用が嵩（かさ）む現状から、様々な費用や料金が高いと感じるというご意見がありました。ただ、学校の設立母体が異なるところの授業料比較は難しいので、何とも言えません。ただ、本校では私立専門学校としての学費等は標準的なところになっていきますし、経費の見直しをしながら、経営努力によって授業料の値上げをしないように努力をしております。

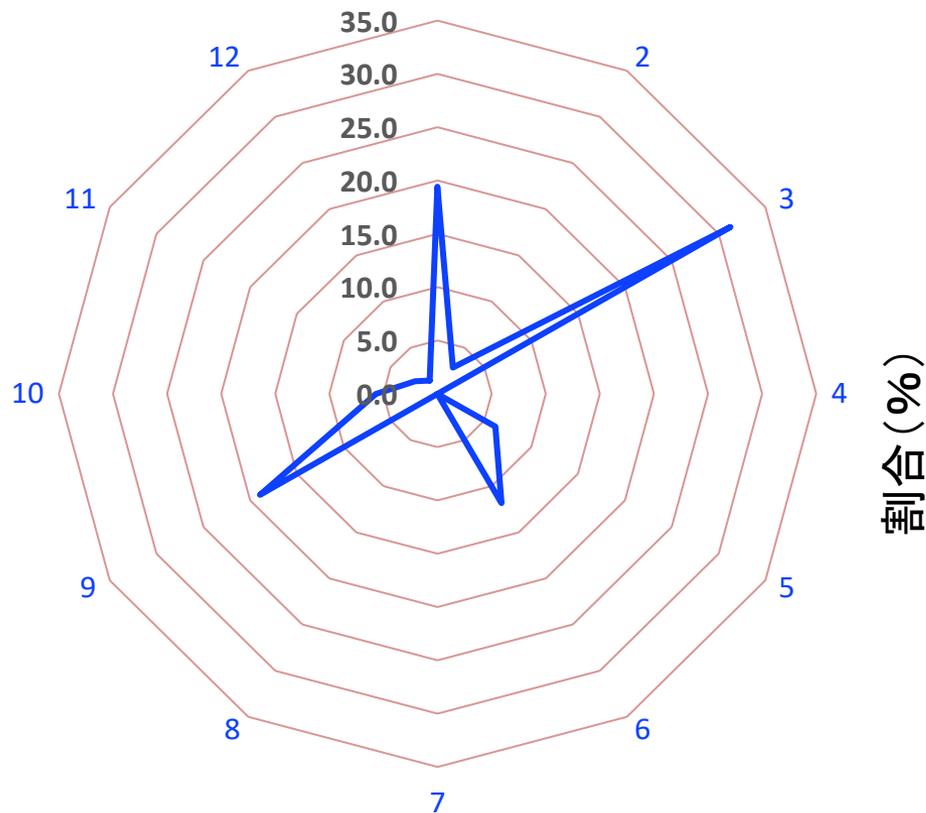
一方、勉学に頑張った学生には成績優秀賞と報奨金を授与しております。さらに、学校行事（例えば、オープンキャンパスなど）をお手伝い頂く場合には、些少ですが、謝礼をお支払いすることも考えております。さらに、今年度から、修学支援申請度に新たな区分として第4区分が設定されましたので、事務課の奨学金担当者に相談してみてください。また、学生がアルバイトをされることも多いかと思われませんが、学業に差し障らない程度でお願いいたします。特に、実習が始まると、アルバイトが難しくなると思われれます。

恋人の存在は、学生生活に良い意味で楽しみや張り合いが出てくることでしょう。さらに、クラスメイトや他学年・他学科の学生達と良好な関係を築くことは、一般に学生生活を豊かにすることに役立ちます。とにかく、良好な関係を築き友達のネットワークを拡大することは日々の生活でもとても大きな楽しみになりますので、学生生活には欠かせない要素だと思われれます。逆に、もしそこがうまくいかないと、とても大きなエネルギーを使うことになることが多いと考えられれます。

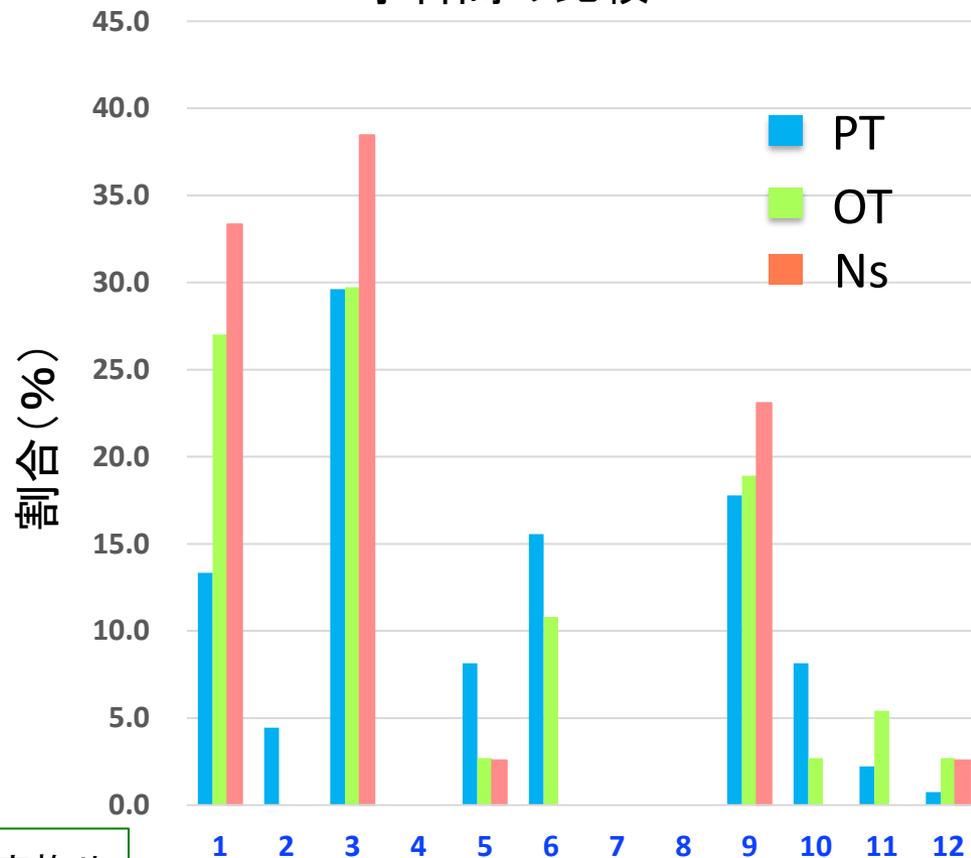
普段から良好なコミュニケーションをとって社会性を高めて行くように心がけることは、学生生活だけでなく、将来にもプラスになることです。人間的に信頼される医療人になってほしいと、皆さんには大いに期待しております。

Q 1 7 ~ Q 1 8 . 精神的サポーターは誰ですか

精神的なサポーター 1



学科間の比較

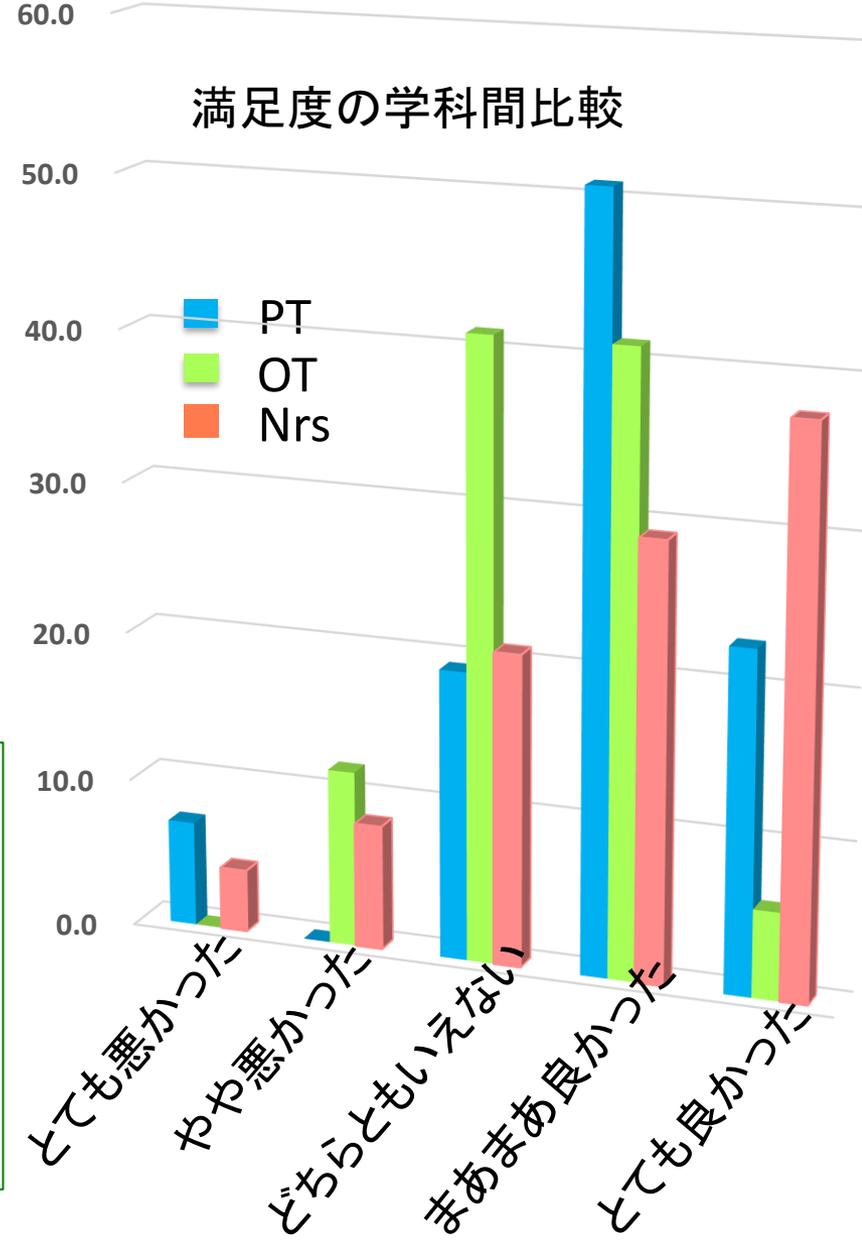
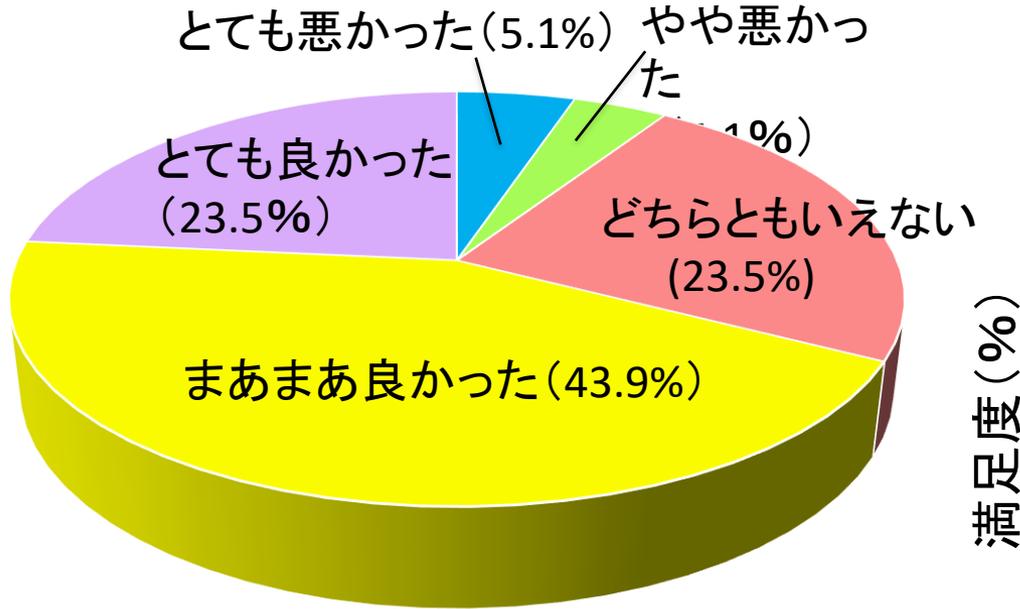


全校的には、1の「学校内の友人や知人」や3の「家族や親戚」がサポーターであることは予想通りであった。9の「学外の知人・友人」を頼りにする学生は毎年少なからず存在していた。5や6の「教員」や「担任」を選んだ学生も存在していた。Q 1 6では「彼女」が、Q 1 8では「彼氏」が記載されていたが、信頼できる人の存在も、また、学生生活の励みになる強い味方になっていたと推測される。

- 1. 学内の知人や友人
- 2. サークルなどの先輩や友人
- 3. 家族や親戚
- 4. 外部講師や実習インストラクター
- 5. 学科の教員 (担任を含まず)
- 6. 担任
- 7. 本部長・事務職員
- 8. 校長・副校長
- 9. 学外の知人・友人
- 10. アルバイト先の知人
- 11. 誰もいない
- 12. その他

Q 1 9 . 本校に入学してよかったと思うか

本校入学後の満足度



昨年度のデータは示していないが、本校入学後の学生満足度は、全体的には昨年度とほぼ同様であった（左図）。学科別で見ても、昨年と同じような傾向であった（右図）。それゆえ、総合的に判断した結果、学生の7割近くが本校入学を肯定的に捉えていたと考えられる。今後も、在学生や保護者等からの要望に応えながら、学生の満足度や信頼度をさらに高める努力を続けていきたい。

Q20-1. 本校入学の決め手や入学後の感想

今年度もたくさんのご意見や要望を頂きました。紙面の都合で主な内容のみを集約して回答させて頂くことにしました。全ての意見は各学科で共有しておりますので、ご了承くださいませ。

学生：「学習内容が自分にあっていた」、「他校より詳しく学べる」、「医療職の資格（看護師や理学療法士や作業療法士）が取れる」という意見（複数）。

学校回答：学習の動機付けとして「学びたいことがあった」とか「学ぶ内容に興味や関心を持っていた」などは、本校入学の決め手としては極めて望ましい理由であり、本校としても嬉しい理由と考えております。そのようなご意見を持っている学生が少なからず存在するとが明らかになりました。また、学生さんが新たな分野を学びを始める時、教員は「学生にその分野に誘う動機付け（モチベーション）話す」ことが教育上の重要なアプローチになる」と考えられます。それゆえ、学生が学習内容に疑問や質問があれば、いつでも質問対応で解決できるように致したいと考えており、それが皆さんの学習のモチベーションをあげるきっかけになると考えております。

学生：「交友関係がとても良い」、「クラスの雰囲気も悪くない」、「先生方も優しい」、「友人や先輩も仲良くやっけていけている」、さらには、「教員と学生の距離感も理想的である」という意見多数。

学校回答：専門教育でも教員と学生の双方向のやりとりは重要な対応と言えます。また、学生さんにとっては3年間あるいは4年間一緒に学ぶクラスメイトや先輩・後輩、他の学科学生との交流などは、とても大切なことです。本校で学びながら、望ましい人間関係（ネットワーク）を構築して行くことは有意義な学生生活を過ごす上で必須のことであり、卒業後の長い人生にとっても掛け替えのない財産になることでしょう。また、教員との関わりも大切なことです。それぞれ、各学科には6～8名の専任教員がいますが、実習先では皆さんの臨床指導に関わっていただける実習指導教員等がいます。さらには、旭川医科大学から多くの非常勤講師として医師や看護師が皆さんの授業指導して下さいませ。そのような本校の教育環境を十分活用して、皆さん一人一人が成長していくことを願っております。

Q 2 0-2 . 本校入学の決め手や入学後の感想

学生：「実家の近くの学校」、「O C の印象」、「周囲の学習環境」、「クラスメイトと付き合い」などのメリットに関する意見多数。

学校回答：遠くの学校と近く学校の比較はどちらが良いと一概には決められません。同じ分野を学べる学校が自宅から通えるところにあるという条件は、一般に、学校選択の大きな要因と考えられます。さらに、「入学した後の学びや遊びに都合が良い」、「友達ができやすい」、「教育が充実している」など本校の教育環境が付加価値となって、皆さんの入学を後押ししてくれたことと考えております。私たち教職員は、「本校入学後は、これまで以上に意欲的な学びを進めていく」ことを期待しており、そのための教育環境を常に整備していきたいと考えております。なぜなら、それが皆さん一人一人の潜在能力をうまく引き出すきっかけになるからであり、ひいては、希望職種で地元あるいは気に入った地域で働けるという目標を皆さんが近い将来達成することになるからです。

自宅外生にとっては、「学習環境が良い」、「比較的物価が安めである」、「刺激が多すぎずに落ち着いて学べる」、「同じ地域的なつながりがある」などは、学校を選ぶ観点として重要視される条件と考えられます。大都会の生活では確かに楽しみが多く、生活に張り合いが持てると考えられます。しかし、学生時代は、むしろ「落ち着いて学習に集中できる環境」を選んでほしいものです。本校には、旭川やその近郊からの出身者が多いことから、考え方のバックグラウンドにも共有できる素地が多いと思われます。気が合えばすんなりと仲良くなることでしょう。仲間と一緒に学ぶこともできるでしょうから、卒業後も連絡を取りながら仕事にも個人的な生活にも落ち着いた対応ができるでしょうし、その結果として、自分の分野で大きく羽ばたいていただくと期待しています。

これまでの環境を大きく変える生活は、進学、就職、転職、結婚、住宅購入、退職など人生のいろいろな節目で経験することになるかと思われます。よく考えて選択することが結局は一番と考えられます。とにかく、本校のメリットを活かして、学生の皆さんがしっかり学んで行かれることを期待しています。

Q 2 0-3 . 本校入学の決め手や入学後の感想

学生：「授業がわかりやすい」、「学校生活が充実している」、「学費や（教育の）質」、「高校の先生に勧められた」、「自身の努力」などの感想がありました。

学校回答：

授業のわかりやすさ：これは最も優先すべきポイントです。授業内容の理解が進めば学習の楽しさに繋がりますし、何事にも積極的になれることでしょう。逆に、入学してみると期待していたほどでなかったと思われることがありましたら、ぜひ、担任あるいは学科長ご相談ください。

学生生活：「楽しく学べる」とか「友達との生活が充実している」ことは学習環境と大いに関わっています。ただ、このような状況は学校ごとに異なっています。特に、大学や大規模校では同級生が沢山いても疎遠なことが多く、必ずしも気の合うクラスメートを見つけられるとは限りません。また、学生数が多ければ多いほど、教員と学生の距離が遠くなる傾向にあります。ですから、学校の立地条件や学校の規模によって自分によりあった学校を選択することが大切です。

学費や教育の質：設立母体が異なる学校とは授業料の設定が異なりますが、教育の質を担保するため色々な内容を進めています。例えば、基礎医学や臨床科目では旭川医科大学から多くの講師をく採用しています。最新の内容もわかりやく興味深く講義していただくメリットがあります。

自身の努力：教育では自己学習という働きかけも大切です。そのために、教員に質問していただくことを大いに推奨したいものです。いつでも質問対応を受けますが、調べたことを元に仲間や教員と話し合うことも、能動学習となり効果的な学びになります。

高校からの推薦：本校と各高校との関係は良好であり、色々な機会を通じて話し合いを持つようにしております。また、課題探求や職業体験に関する授業に関しても高校からの要望に応じてご協力させてもらっております。それゆえ、本校の教育環境をご理解した上で勧めて頂くことはとてもありがたいことと感じておりますし、皆さんにはしっかり将来の目標を達成できると信じております。

Q20-4. 本校入学の決め手や入学後の感想

学生：「授業がわかりにくい」、「費用がかかる」、「まだよくわからない」、「国試の合格率の低さが不安」、「良いところと良くないところが拮抗」などの感想。

学校回答：

授業：授業のわかりにくさは学生によって受け止め方が異なりますが、例えごく一部の学生の意見であろうと、この点は申し訳なく思います。教育の根幹に関わることですので、「分かり易さ」をさらに改善していきたいと存じますし、補講や質問対応のサポートは学科の垣根を超えた対応として推進したいと考えています。

費用：本校を含めた私立学校の授業料は、国公立、医師会、あるいは、厚生連などの専門学校と比べ授業料は高めであります。物価が上昇する最近では、大学や他の専門学校で値上げが相次いで発表されています。本校では、経営努力その他で値上げを回避しながら、着実に学校教育を進めてまいります。

まだよくわからない：そうですね。これから色々と授業を受けて頂く中でご感想をお寄せください。今後は学科や全校的な交流会も開かれると思われれます。教員からも有益な情報を入手することができますが、交流会で知り合った上級生を通して何かを得ることも有益です。

国試合格率：確かに、コロナ禍では本校の国試は十分満足できる成果を上げることができませんでした。それは国試対策だけでなく、コロナ禍での授業の進め方や質問対応にも問題が出てしまいました。過去数年間の合格率の推移を見ると（メルマガ13号）、コロナ禍が続く中でも教育効果が上がるように様々な試みをしており、次第に合格率向上へつながりつつあります。それゆえ、来年度はようやく以前の本来のレベルに到達してきたという結果が期待されます。

良い・良くないことが拮抗：良くないこと（改善を必要とすること）は徐々に減らして行きながら、良いところが大きく広がってくる状況に高めていけると期待しています。今後も、是非、いろいろな意見をお寄せください。

Q 2 0-5 . 本校入学の決め手や入学後の感想

学生：「同じ額払うなら札幌の大学の方がよい」、「学生意見に対する学校の対応」など。

学校回答：学歴社会という考え方により、一般的には大学を志向する方が多くなっています。高校によっては大学進学の実績を高めたいとする進路指導部の方針があると聞いております。しかし、大学卒業生が多くなっている現代では、さらに、実力や能力主義や資格取得が必要だという側面も強くなっており、大学卒業後、専門職の資格を取り直す人々も徐々に増えております。

とにかく大学に進んだら良いと考える人々が多いのですが、実は、大学教育に合う学生や合わない学生が存在していることはあまり注目されていません。大学では研究志向が強いため、教員は学部（大学）教育より大学院教育により力を入れ、研究推進による論文発表を重要視します。多くの大学では、大学教員評価では、研究業績の比重がとて高くなっているからです。それゆえ、望ましいことではありませんが、大学教育を簡単に済ませたり、あるいは、教育そのものにあまり興味を持たない教員が短大や専門学校より多く存在することは一つの明確な傾向として現れています。

勿論、どの大学においても、誠実で熱心な教育対応をしている大学教員は少なからず存在することも事実です。

一方、医療系の専門学校の教員評価では、教育そのものや教育の成果が大きな比重を占めています。それゆえ、例えば、リハビリテーション分野の専門学校では大学と同じ4年間で教育を行っていますが、学生の理解度に合わせた教育からスタートして理解力を高め、最終的には専門職として必要な知識やノウハウが身につくようにカリキュラムが無理なく進むように工夫がなされています。

さらに、学生教育では、いつでも気軽に質問に応じてくれる学生目線の教育支援がなされているのです。ですから、自分に合った進学先を選ぶ視点も大切にしていきたいのです。

皆様からの沢山のご意見やらコメントを頂き、それらを真摯に受け止めております。皆様からの意見で重要なことや優先順位の高いものを選んで、できるところから対応してまいりたいと考えております。

Q 2 1 - 1 . 本校への要望・意見と回答

学生：休日図書館の利用や学生アルバイトについて

学校回答：休日の図書館利用に関しては、現在のところ管理側の教職員の配置などの問題がありますので、しばらくは現行のままになります。図書館の将来構想としては色々な意見がありますので、できるだけ学生の利便性を高める利用を検討しているところです。例えば、図書館無人化や電子図書館構想なども考えられます。図書館司書業務に学生アルバイトを採用している他校もあることは承知しております。ただ、本件は図書館業務のみならず、学校内で可能なアルバイトやボランティア活動をまとめてみることで、様々なアイデアが出てくることでしょうか。それらに優先順位をつけて学校としてお願いしたいと考えています。

学生：アセスメントや実習終了時間の不統一性に関する質問

学校回答：看護のアセスメント（看護過程）について、先生によって違うと感じているということでしたが、それぞれの対象（患者さん）によって、視点が異なっているということがあります。成人看護学の回復期ではセルフケアの視点、母性看護学ではウエルネスの視点など、それぞれの視点が異なるため、学内の講義でも紹介しています。実習では、対象によって疾患や病期が異なるので、講義で習ったさまざまな視点を活用していくことが求められます。疑問に感じた時には、ぜひ教員に確認してみてくださいね。

また、実習終了時間については、大変失礼しました。全員、統一して関わられるようにします。ただし、実習の状況によって多少前後することはご了承ください。

学生：編入制度など

学校回答：ご質問の意味がよく理解できませんが、編入制度に関する一般的な説明を致します。本校から大学などに編入する制度あるいは大学院進学は学校により募集しているところがありますので、ご希望することがあれば、担任にご相談下さい。他校でPT学科に所属している学生さんが本校への編入希望も想定されますが、本校PTやOT学科に他校学生を受け入れる制度はありません。

Q 2 1 - 2 . 本校への要望・意見と回答

学生：実習先までの交通費について（複数意見）

学校回答：多くの専門学校では、実習先までの交通費は自己負担となっています。本校でも、他校と同じようにこの方針で今後もお願いしたいと存じます。ただ、実習中の事故やトラブル等をカバーする保険では、実習先までの移動は公共交通機関を利用するか、自転車などエンジンのないものであれば対象となるという条項が入っています。したがって、自家用車の利用は交通事故の補償対象外となります。さらに、実習病院の駐車場の余裕があれば良いのですが、患者・家族のために残しておく方針のところが多いようです。不便なところもあるでしょうが、バスやJR、あるいは、自転車などを利用して実習先まで移動していただければと存じます。

学生：設備更新に関して（意見複数）

学校回答：設備に関するご要望やご意見、ありがとうございます。数年前から施設や設備の修理・修繕あるいは新規設備の導入は、年次計画に従って進めております。ただ、時には、突然の故障などに伴う対応なども発生しますので、実際の年次計画を見直しながら、優先順位をつけて実施していく計画を立てております。

昨年度、大きな実習室3室に大型エアコンを設置しましたが、日常的に使う教室の設置はまだ追いついていない教室があるかと思えます。特に、夏期や夏日には、必要に応じて室温管理が可能な教室で授業を行ったり、北棟の空き室利用を調整してきたこともあります。

卒業生：4年間お世話になりました。

学校回答：ご返事をお返しする頃は卒業式の前後でしょうから、「ご卒業、本当におめでとうございます！」とご返事させていただきます。本校を卒業され、次のステップに進んでいかれる皆さんのことは教員の心にしっかり残ります。とにかく、健康で充実した人生になるように願っております。一方、近年、母校を訪問する日時（Home Coming Day）を設定する学校が増えていますが、本校では毎日が（皆さんの都合の良い日が）まさにその日だと思っています。いつでも来校下さい。

アンケートご協力に対するお礼

令和5年度の学生アンケートは最終的には40%弱の回収率であり、昨年度より20%ほど低下しました。しかしながら、年度末のご多忙の中でご協力頂きました学生の皆さんには心よりお礼申し上げます。

昨年度と比べると、今年度のアンケート評価が若干低下しています。これは、アンケート実施時期が学生さんの多忙な時期であったり、マンネリ化したということも影響しているかもしれません。また、学生の皆さんからの指摘事項がすぐに全て解決していないというフラストレーションもあったのかもしれません。ただ、各質問事項の評価が低めになされているにもかかわらず、最後のQ19「本校入学後の満足度」は昨年とほぼ同じレベルであったことにホッと胸をなでおろしております。今回の学生アンケートにはあらわれていなくとも、「総合的に見ると本校入学が良かった」という思いが学生の皆さんにあることを実感しております。

私たちは皆さんの学生生活がより充実したものになるように常に学習環境を整えながら、明確な学習成果が得られるように様々な取り組みを推進しております。そのために「わかりやすい授業の展開」を第一の目標としており、「学科間の垣根を超えた交流を深める」ことも第二の目標として益々充実させていきたいと考えています。さらに、保護者の目線からしても「安心して学べる学校である」と実感して頂けるように、より一層細やかな対応を心がけていきたいと考えております。

学生の皆さんからフィードバックは、本校の教育活動全般をより望ましいものに高めていく上で不可欠なことです。どうか、今後も、忌憚のないご意見やご要望をお寄せ頂きたく、心よりお願い申し上げます。

令和6年4月5日

学校法人稲積学園
北都保健福祉専門学校
理事長 稲積実佳子
校長 林 要喜知
本部長 開田 仁司